

ニホンジカ四国個体群の生息状況の把握と管理対策

(1) 種名 (学名)

ニホンジカ (*Cervus nippon*)

(2) 生態の概要

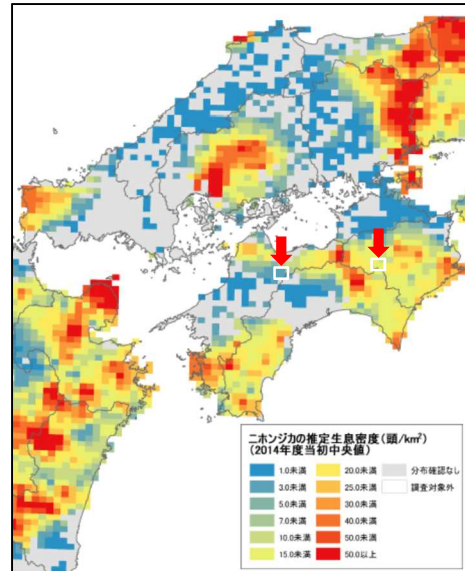
- ・常緑広葉樹林や落葉広葉樹林、草原などに生息する大型草食獣です。
- ・活動は主に薄明薄暮に行われます。
- ・秋(9月下旬から11月)に交尾し、春(5月下旬～)に1頭を出産します。
- ・近年、四国でも樹皮剥ぎ、ササや希少植物の摂食等の農林業被害が深刻になってきています。



センサーカメラ撮影画像

(3) 分布状況の概要

- ・本種の分布域は東南アジアから日本海沿岸にかけて広く分布しています。
- ・四国のニホンジカは亜種キュウシュウジカ (*C. n. nippon*) です。
- ・四国では大きく四国東部と西部の2個体群があり、東部個体群が拡大する中、剣山山系鳥獣保護区ではほぼ全域で林業被害が発生しています。
- ・近年、東部個体群の生息域は石鎚山系鳥獣保護区まで拡大してきており、石鎚山系においても植生衰退が顕在化しています。センサーカメラ調査でも保護区東部にシカ個体を確認しています。
- ・全国的にも生息域、生息数の拡大が問題視され、環境省及び農林水産省では、「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」(平成25年12月)において、「ニホンジカ及びイノシシの生息数を10年後(平成35年度)までに半減」することを当面の捕獲目標に設定しています。



(4) 中国四国地方環境事務所の取組

糞塊密度調査(H29～)、センサーカメラ(石鎚山系鳥獣保護区:H27～、剣山山系鳥獣保護区:H30～)の設置等のモニタリング調査を実施しており、平成29(2017)年度の糞塊調査結果は剣山山系鳥獣保護区(10粒以上28.31/km^{*})と石鎚山系鳥獣保護区(同4.48/km)に大きな開きがあります。

※10粒以上の糞塊が28.31個/kmあるという意味。

なお、平成20～28年度には剣山山系鳥獣保護区で糞粒調査法による調査が実施されてきましたが、捕獲数等を含めたデータセットから階層ベイズ法で個体数推定したところ、剣山山系には、平成28(2016)年度末時点で中央値1.758頭(90%信頼区間183-9,181頭※)程度が生息していると推定されました。

※90%の確率で推定値183～9,181頭の範囲にあるという意味。

また、四国全体の捕獲、モニタリング調査状況を踏まえ、ニホンジカ地域別捕獲戦略(四国ブロック)の実施状況を評価するとともに、剣山山系鳥獣保護区におけるニホンジカ保護管理計画を作成する予定です。この計画を基に剣山山系鳥獣保護区における平成31年度以降のニホンジカの捕獲を実施します。

(5) 他機関、NGO等の取組

- ・四国森林管理局は、国有林内でのシカの捕獲及び調査、四国森林管理局が主催する「四国地域森林ニホンジカ対策連携連絡会」を実施しています。
- ・徳島県は第二種特定鳥獣管理計画を策定(剣山山系鳥獣保護区(徳島県側)を含め)し、県全域でのシカの捕獲及び調査を実施しています。同様に愛媛県でも同計画を策定し、石鎚山系鳥獣保護区を含む地域で捕獲を行っています。高知県、香川県でも、同計画を策定し、計画的にニホンジカの個体群管理に取り組んでいます。
- ・高知県香美市、徳島県那賀町等は、剣山山系鳥獣保護区におけるシカの捕獲事業を実施しています。
- ・三嶺の森をまもるみんなの会は、剣山山系鳥獣保護区(高知県側)での単木ラス巻き、防シカネットでの林地保護等のボランティアを実施しています。
- ・NPO 法人三嶺の自然を守る会は、剣山山系鳥獣保護区(徳島県側)での単木ラス巻き、防シカネットでの林地保護等のボランティアを実施しています。

(6) 課題

剣山山系鳥獣保護区では各関係機関がセンサーカメラの設置、糞塊密度調査等のモニタリングや捕獲を実施しているものの、調査データや捕獲情報が効果的に十分共有されていないことから、平成30年度以降、上述の連絡会において四国内の関連情報を効果的に集約し、共有を図る予定です。

ニホンジカの個体数調整の担い手である、猟友会員・狩猟者の高齢化・減少への対応は全国的な課題であり、四国地域でも同様です。

(7) その他(参考文献、HP等)

抜本的な鳥獣捕獲強化対策(平成25年12月)

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/pdf/kyouka.pdf>

改正鳥獣法に基づく指定管理鳥獣捕獲等事業の推進に向けた全国のニホンジカの密度分布図の作成について（お知らせ）

<http://www.env.go.jp/press/101522>